

令和6年度 江戸川区立南小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考える子（重点） 思いやりのある子 たくましい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「学校・家庭・地域が共に補い合い、三位一体で児童を共育する南小岩小」⇒【教育環境の創造】 「すべての児童が一つでも多くの自己実現を果たそうとする南小岩小」⇒【学力向上】【心力向上】【体力向上】 【学力向上：授業で勝負する教師】【心力向上：児童の心の声を待つ・聴く・受け止める教師】 【体力向上：心身共に健康な教師】	
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞児 童：特別支援教育を推進し、自他を思いやる心の醸成を育んでいる。校内研究を充実させることで、児童の深い学びについての理解を深めた。 教 師：新校舎における、新年度の教育活動が円滑に推進できた。	課題	児 童：児童の自己肯定感を高め、心力向上をはぐくむ。学力や体力を区や都の平均以上にすることを旨ずる。 教 師：心身ともに疲労蓄積したままの教員がいる。「誰もが働きやすい職場環境の創造」が最優先課題である。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学 力 の 向 上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学 習の基盤となる基礎・ 基本の確実な習得、家 庭学習習慣に対するの 学校の組織的な対応に よる取組の実施・充実	1 本校独自の学力調査 （年間2回）に基づく、指 導の充実 2 ミライシード内「ドリ ルパーク」を活用した基 礎・基本の徹底 3 タブレット端末を活用 した協働的な学びの実現	1 第2回実施時の 正答率を全学年3％ 以上向上 2 ドリルパークの 定着率が80%以上 3 タブレット端末 を活用した授業を1 日に1時間以上実施				第2回の実施は今後行ってい く。	B	基礎的な学力をはぐくむこと、 特に、読み・書き・計算は非常 に大切であるので、力を入れて ほしい。 タブレット端末の使い方の指導 もよく行ってほしい。	C	●本校独自の実施調査に変わ り、区の学力調査を実施した。 区平均を上回る手だてを講じて いく。	B		・朝学習や家庭学習を中 心として、「ドリルパー ク」を全学年で推奨し、 基礎的・基本的な学力向 上を図っていく。 ・「ミライシード」等を 効果的に活用した取組に ついて、ICT支援員と連 携し、さらに推進してい く。
				C		C	ドリルパークへの取組は、推進 が必要。			C	●ドリルパークの定着度を見て いく。	B	基礎学力は身に付けてほしい。	
				B		B	低学年も含め1日に1時間以上 実施できているので、今後も内 容を充実させていく。			B	○タブレット端末を活用した授 業が充実し、ミライシード等を 活用した授業をした。	B	今後もタブレットを積極的に活 用してほしい。	
	○読書科の更なる充実	1 読書科における、探究 的な学習の実施 2 調べ学習コンクールへの 参加	1 探究的な学習を全 学年で年1回以上実施 2 コンクール応募率 を中学年以上で60%以 上。	C		C	調べる学習コンクールは応募で きている。	B	探究的な学習もよいが、その推 進も含め、まずは、読書好きな 子を増やしてほしい。	C	●高学年では、ほぼ100%で あった。事前・事後指導を充実 させていく。	B	読書する習慣は身に付けてほし い。	・学校図書館司書と連携 し、学校図書館の活用の 充実をさらに図ってい く。また、年間指導計画 を見直し、全学年におけ る探究的な学習の推進し ていく
体 力 の 向 上	＜運動意欲や基礎体力 の向上＞	1 全校運動遊びの充実 2 体育授業の充実 3 食育・歯の健康	1 全校運動遊びを 内容を充実させ、週 1回実施。 2 年間指導計画を 見直し内容の充実を 図る、また、体力テ ストで全項目で、昨 年度の数値を向上。 3 食後の歯磨きを 150回以上実施。	C		C	学年間における全校運動遊びへ の取組に差がある。	C	校庭を活用し運動にも期待して いる。	C	●たてわり班活動での遊びの内 容にいかしていく。	B	校庭ができて運動を活発にして いる様子が見られる。	・日々の体育の授業改善 及び運動遊びの充実を 図っていく。
				B		B	50M走以外は、昨年度の項目 からの向上が見られている。	B	体力向上は、とても大切であ る。持久力を高めてほしい。	B	○学校全体で区や都の平均を上 回った。	B		
				B		B	歯みがきは励行できている。	B	歯みがきの取組をさらに充実さ せてほしい。	B	○中学年まではよくできてい る。	B	歯みがきは大切にしてほしい	
実 現 に 向 け た 共 生 社 会 の 推 進	＜特別支援教育の推進＞ ・学びのユニバーサルデ ザインの視点を取り入れた個 に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活 用促進 ・副籍交流、交流及び共同 学習の実施・充実	1 学びのユニバーサルデ ザインの視点を取り入れた 学級経営・授業の創造 2 みつばち学級と通常学 級の積極的な交流	1 特別支援学級や 特別支援教室の児童 に加え、特別な配慮 を必要とする児童の 個別指導計画の作成 を100% 2 みつばち学級児 童との授業や休み時 間の交流を全学年で 月1回実施	A		A	個別指導計画の作成はよくでき ている。	B	交流は、より推進してほしい。	B	○作成したことを実施し、検証 を十分に行っていく。	B	交流を大切にしてほしい。	・全学年で、学期に数回 以上みつばち学級と通常 学級との交流活動を行 い、共同学習を充実させ ていく。
				B		B	専科の授業の交流はよくできて いる。休み時間の交流を充実さ せていく。			B	○学校行事を中心に、かかわる 機会が増えた。	B		
不 登 校 の ・	＜子どもたちの健全育 成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・ 充実 ・教育相談の強化	1 学校の居場所づくり、 絆づくりに向けた取組 「hyper-QU」の実施 2 SC及びSSW等連携し たケース会議の実施	1 保護者・地域ア ンケートで、思いや りの心の育成につい ての肯定的な回答7 0%以上				アンケート未実地のため、未回 答			B	○昨年度と比較し、思いやりの 項目が向上した。	A	思いやりが育っていてうれし い。	・教職員間における 「報・連・相」の徹底を 図っていく。 ・ふれあい月間をはじめ として、学校全体で取り

の 充い 実じ め	・教育相談の強化 ・hypaaer-QUの活用		2 SC及びSSWとの連携を週1回以上実施	A		A	SCによる児童及び保護者面談は飛躍的に増え、情報共有もしっ かりできている。	A	今後も不登校対策はお願いしたい。	A	OSC面談は、定期的を実施され れおり、配慮を要する子への手 だてを共有している。	A		そして、学校全体で取り組める活動を推進し、子供の様子に常に気を配っていく。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	<自校（園）の取組の積極的な発信> ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	○ 保護者・地域向けのお知らせや学校ホームページの充実	○ 週1回以上、更新する。	A		A	週2．3回以上は、更新できている。	A	昨年度と比較しても内容が充実している。	A	○週に数回程度更新し、学校の様子を伝えることはできている。	A	学校ホームページを見て、保護者もより協力してほしい。	・学年の学校ホームページ担当を中心に、内容を積極的に更新していく。
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○ フォームズやテトルを活用した学校評価を計画的に進行	○ 保護者等アンケートで、学校の教育活動への理解についての肯定的な回答80%以上				アンケート未実地のため、未回答			C	●フォームズ等での回答を実施したが、回答率は、40%程度である。回答を啓発していく。	C		・多くの行事でフォームズを活用し、さらに項目も厳選していく。
教育の特色ある展開	<心力の向上> ・心豊かな児童の育成	1 全教育活動を通した道徳教育の推進 2 家庭と連携した道徳教育の実践	1 全学級年間35時間以上の道徳授業 2 全体保護者会、道徳授業地区公開講座、学校だより巻頭言等で保護者に協力依頼	B		B	道徳授業公開講座では、充実した意見交換会を実施できた。	B	とてもよい意見交換会であった。今後の道徳教育にも期待している。	B	○東京都小学校道徳教育研究会の研究発表会において、成果を発表した。	B	地域で挨拶をする児童が増えたように感じる。	・特別の教科 道徳の授業改善ついて、校内研究等をとおして充実させていく。
	<心をこめた挨拶の励行>	○ 全教職員で挨拶の励行、校長は200日以上正門で出迎え	○ 校長は、年200日以上、正門で「心をこめた挨拶」の率先垂範	A		A	ほぼ毎日正門での挨拶励行ができている。	A	これからも挨拶は大切にしていきたい。	A	○校長自ら挨拶を励行し、全児童の挨拶に対しての意識が高まっている。	A		・今後も教職員全体及び全校児童にも「心をこめた挨拶」を励行していく。